



令和1年9月26日

会長の時間（貫会長）

最近、大きな台風が二つまいりました。17号で、宮崎と長崎でかなり大きな停電があった。

16号で、特に千葉地方に大変大きな被害をもたらしました。

被害に遭われた皆様方には心からお見舞い申し上げます。

特に千葉は、大変長い大停電が続いた訳でございますけども、なんであんなに長期間停電が続いたかと言う事は、皆様、非常に興味を持たれておられると思います。

実際は、設備の配置状況等、見ないとわからないですけど、我々の長年の勘と長年の経験とTVで見た状況なんかから少し類し致しますと、電力の安定供給体制と言うのは、一つは発電所ですね。発電所から電気を送り出す送電線というのがあって、これは50万ボルト、22万ボルト、11万ボルト、6万ボルトという事で、量と大きさによって電圧が違う形で送っております。それが変電所に行きまして、一番末端の変電所6万辺りの変電所からですね、6000ボルトの高圧線と言う市街に通っている電柱がございますね。あれが6000ボルトの高圧線ですけど、それに流れて行って、その高圧6000ボルトから通常のポルトランス（柱上変圧器）で、200ボルト、100ボルトに落として、一般のお客様に送り込むと言う。

そう云う形になっておるわけでございますけども、まあ停電のない設備をどうやって作るかと言うと、非常にあの台風等に強いのは… 発電所はまったく大丈夫ですね。送電線もですね、我が九州電力の送電線も80メートル位の台風には耐える位の強度を持っていますし、変電所はまず大丈夫ですね。という事はやられるのは配電線ですね。非常にやられるという事で、したがって出来るだけ配電線が少ない体制、設備体系を作ると、非常に被害が少ない体系が出来上がるという事でございます。まあ東京電力というのは、実は非常にそう云う意味では安全性の高い設備形態を持っています。配電線のこう長と言いますか、長さと言いますか、あれだけ見ますと東電の管内はですね、大体25万キロメートル位。地球の七周り位か六周り半くらいの設備を持っています。九州電力の場合は、15万キロメートル位の配電線がある訳で。ある意味需要は九電の三倍くらい東電はあるのですが、配電線の長さが1.6倍位しかないの、結構良い設備を作っているはずなんです。問題は千葉と言う土地ですね。非常に人口密度が低くて非常に平坦で。まあ要するに大きな山もないと言う事なので、まあそのどっちが、お金がかかるかと言うと送電線と変電所を作ると数十億から数百億と言うお金がかかるわけです。ところが配電線の場合はですね1キロメートル当たり3000万くらいのコストで出来る。ただ、支柱化すると配電線1キロメートル当たり5億位かかるということなので、まあ全然価格が違うんですけども非常に配電線の方が、まあ安く出来上がる。従って九州電力は配電線が長いですよ。貧乏会社なもので、配電線が長い形態を作っている。東電はですね、まあそうになってないんです。おそらく千葉地域は平坦なので変電所の数が少なくて配電線で山とか丘とかを、ずっと巡らして行って電気を供給している形態になっているんじゃないか。滅多に台風が来ないので、それで良かった。ところが、今回の台風では、やられてしまった。まあ九州でやられた場合はですね、まあそれでも一番困るのは倒木なんです。山の中でどンドン木が倒れてくると、道が塞がれてしまって修理に行



国際ロータリー第2700地区

福岡南ロータリークラブ

Fukuoka South Rotary Club

けないと言う状況が出てくる。

九州の場合は、そうなった場合はですね、送れないところについては、ヘリコプターで高圧発電機を持って行って、それで電気を供給するという事も、まあエリアが狭ければ出来るんですけども、千葉のようなところでは、とてもそれは出来ないという状況で。あちらこちらで倒木の為に、配電線がズタズタになったという事で非常に長くなったんだろと思います。

もう少しお金をかけて千葉も供給形態をしっかりしないと行けないような形だったかもしれない。ただ平成何年以降は、電力自由化ということで、競争、競争と電気料金を下げること、全電力、命を懸けて来たので、まあそのへんで設備にほとんどお金を懸けて来てないというのが、この30年間の電気事業の実態でございます。まあ、その中でどうやって安定供給を守るかというのが、非常に大きな課題になっている。すなわち停電をしない為にはお金がかかると言う事ですね。皆さんご承知おきをお願いしたいと思います。以上です。

